

寒さ暑さから 授粉蜂を守る

燃油や電気代の高騰で施設園芸が苦境となる中、イチゴなどの授粉に使う蜂の巣箱を保温し、ハウスが低温や高温になっても蜂の活動を支える資材が注目されている。トーホー工業の「ミツバチホーム」は、断熱性の高い発泡スチロールで巣箱を覆う商品で、販売数は右肩上がりという。商品は組み立て式で、主要各社の交配用ミツバチの巣箱に対応する。巣箱の温度変化を抑えられ、蜂の長期利用につながる。

トーホー工業「ミツバチホーム」

燃油節約で保温資材人気



巣箱を「ミツバチホーム」に入れるアビの担当者(岐阜県各務原市で)

あり、寒ければ体を震わせて発熱し、暑ければ羽ばたいて風を送ったり、水を運んで打ち水をしたります。ここに体力を使うと送粉能力が落ち、寿命も短くなる。

当初は冬季の保温目的で発売したが、その後、夏季の高温対策に効果があることも確認した。交配用ミツバチ大手のアビとの試験では、巣箱だけでは夏場は内部の温度が22〜42度(温度差20度)と変化したが、商品を使うと26〜38度(温度差12度)に抑えられた。3カ月使用しても死亡する個体は少なく、幼虫も確認できた。

トーホー工業東海営業部の森田光洋さんは「通年で効果がある。燃油価格が上がる中、販売や問い合わせは増えている」と話す。

価格は送料別で8800円。トーホー工業のホームページから購入できる。アビは交配用ミツバチとセット販売をしている。詳しくはアビミツバチ課、☎0558(274)1138。